

つなぐ線香花火

旧暦六月十七日。満月に近い大潮、宮島では「十七夜」と呼ばれる「管絃祭」が行われる特別な日。

潮の干満を時計として執行されることから旧暦で行われる。海上を移動する管絃舞台（御座船）とそれを曳く船とで行われる船神事。コロナ禍の過去2年間は、江波と阿賀の曳舟による海上渡御は中止され、略式で行われ、本年も同様に略式で催行されます。

月と潮、満つる中、みなさんで線香花火の種火をリレーしながら夜の水辺に広がる音風景（サウンドスケープ）を楽しんでみませんか。自然の営みに神の音連（おとづ）れの気配を感じつつ、古来からつながる管絃の神事とシンクロし、浜を清める波の音とグルーズしながら。

大鳥居が改修を終え、新しい大鳥居を管絃船が通過する来年に想いをつなぎ、皆さまの旅のかけがえないひと時となることを願いつつ。

江戸の中期、広島ではこの夜、浜辺や川辺で、膨れつつ遡上する潮を「管絃潮」としていただき、遠く宮島と同期し、身を清め疫病除災を祈る風習があったとか。かつて広島湾、瀬戸内で共有された遠い記憶の中のもう一つの時間を想起する線香花火。

次回開催予定 2023年8月3日(旧暦六月十七日)